

01-1 学校経営構想

I 教育（人づくり）の目指す方向性

1 国（文部科学省の方針） 第4期教育振興基本計画(R5～9年度)(R5.6.16)

(1) 2つのコンセプト

①持続可能な社会の創り手の育成

- ・将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる
- ・主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

②日本社会に根差した ウェルビーイングの向上

- ・多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上
 - ・幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む
- ※日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められている。

※教育に関連する ウェルビーイングの要素

- ・自己肯定感 ・自己実現 ・心身の健康 ・安全安心な環境 ・幸福感 ・多様性への理解
- ・協働性 ・利他性 ・社会貢献意識 ・サポートを受けられる環境 ・学校や地域でのつながり

(2) 5つの基本的な方針

- ①グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- ②誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- ③地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- ④教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- ⑤計画の実効性確保のための基盤整備・対話

(3) 16の教育政策の目標

- ①確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成（個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実・学修者本位の教育の推進）
- ②豊かな心の育成（いじめ等への対応、人権教育の推進・体験活動・交流活動の充実）
- ③健やかな体の育成、スポーツを通じた豊かな心身の育成（学校保健、学校給食・食育の充実・生活習慣の確立、学校体育の充実・高度化）
- ④グローバル社会における人材育成（外国語教育の充実）
- ⑤イノベーションを担う人材育成
- ⑥主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成（子供の意見表明・主権者教育の推進）
- ⑦多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂（特別支援教育の推進・不登校児童生徒への支援の推進）
- ⑧生涯学び、活躍できる環境整備
- ⑨学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上（コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進・家庭教育支援の充実）
- ⑩地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進
- ⑪教育DXの推進・デジタル人材の育成（1人1台端末の活用・児童生徒の情報活用能力の育成・校務DXの推進）
- ⑫指導体制・ICT環境の整備、教育研究基盤の強化
- ⑬経済的状况、地理的条件によらない質の高い学びの確保
- ⑭NPO・企業・地域団体等との連携・協働
- ⑮安全・安心で質の高い教育研究環境の整備、児童生徒等の安全確保
- ⑯各ステークホルダーとの対話を通じた計画策定・フォローアップ

<p>2 静岡県教育振興計画(2025～2028年度)案</p> <p>(1) 基本理念 未来を切り拓く人材の育成と社会を生き抜く力を育む教育の実現</p> <p>(2) 取組方針</p> <p>1 未来を創造する力を育む教育の推進 目指す姿 ○自ら課題を的確に捉え、解決につなげる能力とともに、時代の先を読みつつ、新しいことに食欲に挑戦し、新たな価値を創造できる力を育む教育を推進 ○グローバルな視点と郷土に対する愛情を持って静岡県に貢献する人を育てる。 ※話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる (R10:90%)</p> <p>2 全ての人の学びを支え、力を引き出す教育の推進 目指す姿 ○個々の実情やニーズに沿った多面的・総合的な支援を実施することで全ての人の可能性を引き出すとともに、社会を生き抜く力を育む教育を推進 ○多様性を尊重し、個に応じて誰もが社会の担い手として活躍できる社会を目指す ※相談できる人がいる (R8:100%)</p> <p>3 地域ぐるみで取り組む教育の推進 目指す姿 ○地域との連携により魅力ある学校づくりを進めるとともに、学校、家庭、地域等が主体的に連携し互いに学びを支え合うことにより、地域ぐるみで教育を推進 ○誰もが生涯を通じて学び続けることのできる環境を整備し、地域社会を担う人を育てる。</p> <p>4 学びを支える基盤づくり 目指す姿 ○教職員の資質向上や働き方改革を進めるとともに、教育DXにより学びの高度化や校務の効率化等を図り、学びを支える基盤を充実する。 ○学校施設等の安全・安心を確保するとともに、過ごしやすい環境の整備を推進。 ※児童と向き合う時間や指導準備時間が増えていると感じている教員 (R8:70%)</p>	<p>3 菊川市教育振興基本計画 (2024～2026)</p> <p>(1) 基本理念 豊かな学びで歩み続ける人づくり …自立した人 …思いやりのある人 …いつまでも学びつづける人</p> <p>(2) 基本方針</p> <p>1 生涯にわたる人格形成の基礎を培う教育・保育の推進【幼児教育】</p> <p>2 「確かな学力、健やかな心身」の育成を目指した、知・徳・体のバランスの取れた教育の推進【学校教育】</p> <p>3 市民一人ひとりが心豊かで充実した人生を送ることができる社会教育の推進【社会教育】</p> <p>(3) 2についての重点施策</p> <p>施策1 小中一貫教育「学びの庭」構想の推進 ○地域・学校間連携の推進及び学校間の交流の推進 ・学校運営協議会の開催…R 8年6回開催 ・学舎の委員にPTAを入れる。計3名等 ○豊かな学びを支える環境づくりの推進</p> <p>施策2 ICT環境等を生かした魅力ある授業づくり ○魅力ある授業づくりの推進 ○GIGA スクール構想の推進 ・「授業がよくわかる」…R 8強肯定 60% ・「授業でタブレットを使って自分の考えを表現したり、友達と意見交換をしたりした」…R 8強肯定 60%</p> <p>施策3 思いやりに満ちた学校づくり ○魅力ある学校づくり ○「心の教育」 ○児童生徒の心に寄り添う支援 ・「学校が楽しい」…R 8強肯定 70%</p> <p>施策4 「一人ひとりが生きる教育」の推進 ○特別支援教育の推進 ○外国人児童生徒への教育支援 ○安全教育の充実 ・「みんなで何かをするのは楽しい」…R 8肯定 97% ・「学校が楽しい」と回答する外国人児童…R 8肯定 97%</p> <p>施策5 ころざしをもった頼もしい教職員の育成 ○教職員の育成指導 ○教職員の人事及び評価 ○円滑な学校運営の推進 ・学校に信頼することができる先生がいる」…R 8肯定 95%</p> <p>施策6 学校施設の適正な維持管理・耐震化・長寿化</p> <p>施策7 安全で安心して教育が受けられる環境づくり</p> <p>施策8 安全でおいしい給食の安定的な提供</p>
--	--

01-2 令和8年度小笠東小学校の教育

1 学校の概要

(1) 地域

昭和29年3月31日、平田・小笠・南山の三か村が合併して「小笠村」となり、さらに平成17年1月17日に菊川町と小笠町の合併により、「菊川市」となる。牧之原台地の西側に位置し、東は牧之原市、南は御前崎市と隣接する。東西7.3km、南北9.8km、面積30.3平方キロメートルで、大半は、農地や山林である。平坦部では稲作、施設園芸（イチゴ・トマト・メロン）が行われ、東部から南部にかけての山間部では茶の生産が行われている。近年、平坦部への工場進出が進み、第二次産業や第三次産業との兼業化が進んでいる。また、新設の道路が南北につながる計画があり、周辺地の宅地化、商業地化が予想される。

(2) 沿革

- 明治6年4月1日 高橋学校の分校として、赤土・棚草・丹野に各一校を設置
仮校舎に安興寺・雲林寺・善勝寺を充てる
- 明治8年1月8日 赤土・棚草・丹野の分校を合併し、「川上小学校」を設立
学年は上等・下等とし、校舎は善勝寺を充てる
- 明治11年10月21日 校舎を現在地に新築
- 昭和16年4月1日 国民学校令により、「小笠村立小笠国民学校」と改称
- 昭和22年4月1日 学制改革により「小笠村立小笠小学校」と改称
- 昭和29年3月31日 町制施行により「小笠町立小笠東小学校」と改称
- 昭和38年10月15日 プール完成（25m×10m・10m×7m）
- 昭和39年2月28日 校歌制定
- 昭和43年4月9日 各教室にテレビを設置。
- 昭和50年3月2日 体育館新築落成。創立百年祭挙行
- 昭和54年12月3日 新校舎落成（鉄筋コンクリート3階建）
- 昭和63年3月5日 校舎増築（多目的ホール・図書コーナー）既存校舎内部改装（図工室・特殊学級・談話室）落成
- 平成5年1月6日 新プール起工式
- 平成5年6月18日 新プール落成式
- 平成7年11月22日 創立120周年を祝う会（児童会主催）
- 平成9年4月1日 特別支援学級（1組）再設 フレンドルーム（外国籍児教室）開設
- 平成10年6月22日 校舎増築工事及び既存校舎一部改築工事着工
- 平成10年12月24日 校舎増築工事（図工室・コンピュータ室）、既存校舎一部改築工事（生活科室・職員更衣室）完成
- 平成12年9月20日 小笠東小学校のホームページ開設。
- 平成13年4月7日 放課後児童クラブ開設式（ケロちゃんハウス）
- 平成15年4月1日 情緒学級（花組）新設
- 平成17年1月17日 町合併により「菊川市立小笠東小学校」と校名変更
- 平成17年10月12日 創立130周年を記念して、航空写真撮影
- 平成18年10月31日 パソコン室整備（新規パソコン40台）
- 平成19年12月21日 職員用パソコン配置
- 平成21年3月4日 新体育館落成式
- 平成21年3月28日 体育館併設コミュニティセンター（愛称：くすりん）落成式
- 平成22年3月24日 各学級にデジタルTV、コンピュータ設置
- 平成27年5月8日 創立140周年を記念して、航空写真撮影
- 平成27年8月26日 タブレット55台導入（2階談話室に保管庫を設置）
- 平成27年12月17日 二宮金次郎像建立記念式典（小笠東地区教育振興会より二宮金次郎像の寄付を受ける）
- 平成29年11月29日 菊川市教育委員会指定 ICT活用研究発表会開催
- 令和元年6月1日 普通教室空調工事完了
- 令和2年5月1日 YouTubeチャンネル 寺子屋くすりん開設 ペこりあいさつ開始
- 令和3年4月1日 一人一台端末ギガスクール構想開始
- 令和4年10月31日 大規模耐震工事完了 児童会紹介チャンネルペコチューブ開設
- 令和5年9月14日 地元企業とのコラボ企画「ペこりあいさつたすきで、みんなを元気に」プロジェクト
- 令和6年9月27日 地元企業とのコラボ企画「ペこりあいさつたすき」全校児童・職員に贈呈
- 令和6年11月15日 小笠東地区教育振興会より、小会議室に空調設備寄附
- 令和7年5月15日 創立150周年を記念して、航空写真撮影

(3) 学区

市の南東部に位置し、丹野川流域の平坦地では稲作、牧之原台地とそれに連なる山間部では、茶の生産が行われている。近年、地域への工場進出により、専業農家が減少し、兼業農家や勤め人が増加している。それに伴い、昔からの集落と新興住宅地や新しい宅地が混在している。また、外国人も多く、かつ定住する外国人も増えてきている。

保護者の学校教育に対する関心・期待は大きく、学校行事動には協力的である。スポーツ少年団の活動も活発である。

2 令和7年度の取組

学校教育目標 「自信をもち 自分の力を発揮する子」(岳洋学舎共通目標)

重点目標 「思いをもち 挑戦しよう」

(1) 生徒指導

誰一人取り残さない教育の実現に向けた『支える生徒指導』

「子供の自信 個の力」を育てる～児童が日々安心して生き生きと楽しく生活する
学級・学年づくり～

ア きまりを守り、安心・安全な学級・学校（土台）をつくろう

イ 自分らしさ、学級・学年らしさを生かして挑戦しよう

ウ 成長を自覚し、感謝の思いや次年度への希望をもとう

(2) 研修

思いをもつ 学び続ける子の育成

ア まとめと振り返りの違いを知り、自分の「思い」に気付こう

イ 「思い」から授業をつくろう

ウ 「思い」にあった授業を振り返り、次年度へつなげよう

(3) 学びづくり部

児童が主体的に取り組み、学びの実感をもつ授業

ア 目指す授業を共有し、授業の基盤づくりをしよう

イ 話す・聴く力を伸ばし、授業力を高めよう

ウ 授業の自慢を増やして次年度へつなげよう

(4) 活動づくり部

児童が「自分ごと」としてつくる行事・活動づくり

ア 自分のよさを知り、自分の思い（めあて）をもとう

イ 自分の力を伸ばそう

ウ 自信をもって次年度へつなげよう

エ ありがとうの気持ちを表そう

3 学校経営方針

小笠東小学校の良さとして、

- ・前向きで明るい（ひとつひとつの活動に子供の思いがあった。あいさつが良い）
- ・優しい（ペア、他学年との交流がある）
- ・挑戦する子が増えた（子供たちの思いを大事に取り組んだ）
- ・粘り強い（思いをもてるようになった）

が挙げられる。この良さを、心のチャンピオンとして認め合うことで、安全・安心な学級経営ができています。

また、多くの職員が自分の学級の児童だけでなく、全校の児童と関わりをもとうとしている。全職員のチーム力で、子供たちのよさや可能性を育む学校をつくることができている。

学校は楽しい場所である。自分の力を伸ばし、友達と支えあい、高め合う場所である。児童と職員の笑顔あふれる学校にしていきたい。

そのために、**私の信念**と2つの柱を学校経営方針として掲げる。

教育の源は信頼

(1) 安全安心【生活安全・災害安全・交通安全】【安心で過ごせる学級・学校】

「自分の命は自分で守る、地域は皆で守る」

- ・南海トラフ巨大地震が想定される地域だからこそ、身を守る行動がとれるようにする。

「自分らしさを出せる学級、学校」

- ・笑顔で登校した子供を笑顔で帰す。生き生きと学校生活を送ることができるようにする。

(2) 人権尊重

「自他の人権を大切にす態度と行動」

- ・子供は一人一人かけがえのない存在である。子供同士、教師と子供、さらには教職員同士がともに相手の存在を尊重し認め合う、思いやりあふれる人権尊重の教育を根底とする。

4 学校経営目標

学校経営方針を基軸に、3つの「きょう育」を達成する学校となることを経営目標とし、目標指数を設定する。

(1) 【今日育】児童が日々安心して笑顔で楽しく活動する学校をつくる

※市施策3、4に関連

- ①「学校は楽しい」 ……**A評価 70% = 市** (R6:61.9%、R7:68.5%)
- ②「みんなで何かをすることは楽しい」 ……**AB評価 97% = 市** (R6:96.7%、R7:96.7%)

(2) 【教育】児童が主体的に取り組み、高め合う授業を実践する学校をつくる

※市施策1、2に関連

- ③「授業がわかる」 ……**A評価 60% = 市** (R6:47.6%、R7:42.4%)
- ④「授業に主体的に取り組んでいる」 ……**AB評価 95% = 学** (R6:89.5%、R7:91.3%)
- ⑤「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」 ……**A評価 50%** (R6:44%、R7:40.2%)
- ⑥岳洋学舎としての取組 ……**A・B評価 80%**

(3) 【共育】子供同士、子供と職員、職員同士が協力し高め合う学校をつくる

学びを地域に開き、保護者・地域に信頼される学校をつくる

※市施策1、5に関連

- ⑦「信頼できる先生がいる」 ……**AB評価 95% = 市** (R6:94.3%、R7:94%)
- ⑧「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」 【5.6年】
……**A評価 65%** (R6:26%、R7:60%)

5 児童・教職員・地域・保護者の実態

(1) アンケート結果

項目	R6児童(11月)			R6保護者			R6教職員			R7児童(11月)			R7児童(11月) 7月との比較…色 数値目標○×			R7保護者(11月) 昨年との比較…色		R7教職員(11月) 昨年との比較…色		R8目標指数		
	4	4+3	目標数値	4	4+3	目標数値	4	4+3	目標数値	4	4+3	目標数値	4	4+3	目標数値	4	4+3	4	4+3	市(R8)	岳洋学舎	学校
【今日育①】 学校が楽しい。	61.9	95.2	90	61.4	95.7	37.5	100	68.9	93.2	○68.5	96.2	強肯定65	60.9	96.4	54.5	100	強肯定70	肯定95	強肯定70	肯定95	強肯定70	
【今日育②】 みんなで何かをすることは楽しい。	75.2	96.7	90	77.8	97.1	43.8	100	74.3	95.1	○80.4	96.7	強肯定80	82.2	98.4	36.4	100	肯定97				肯定97	
【教育④】 授業に主体的に取り組んでいる。	40	89.5	90	42.7	86.9	6.3	75	46.6	86.4	×42.4	91.3	強肯定45	30.2	87.5	40	100				肯定95	肯定95	
【教育③⑥】 授業がよく分かる。	47.6	90	90	38.2	82.6	0	56.3	56.3	92.2	×42.4	91.8	強肯定50	32.3	83.9	40	100	強肯定60				強肯定60	
【共育⑦】 学校に信頼できる先生がいる。	70.8	94.3	90	61.8	90.8	31.3	87.5	76.2	95.6	×74.5	94	強肯定80	68.8	95.3	63.6	100	肯定95				肯定95	
【共育⑧】 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。(5, 6年)	26	76.6	70	23.4	70.1	0	44.4	38	87.3	○60	90.8	強肯定30	28.8	66.7	9.1	90.9					強肯定65	
【教育⑤】 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること	44	84.7	80	34	85	20	66.7	44.9	87.3	×40.2	89.1	強肯定50	26.7	80.6	10	90					強肯定50	
授業では、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか。	40.9	74.5	90			60	66.7	60	91.2	○58.2	89.1	強肯定50									強肯定50	
【教育⑥】 相手を意識して、わかりやすく伝えようとしている。	38.7	76.6	75			58.3	83.3	50.2	90.2	43.6	○89	肯定80	26.3	83.9	36.4	100	強肯定60	肯定80	肯定80	肯定80	肯定80	
学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っているか。(3~6年)	19.7	65	70			16.7	41.7	34.1	68.9	×33.1	66.9	強肯定40									強肯定40	
学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っているか。(3~6年)	16.1	45.3	65			16.7	33.3	27.4	57.8	×19.4	54	強肯定40									強肯定40	
【教育⑥】 わかったことや振り返りを書くことができる。	43.5	85.2	75	32.3	76.6	7.1	71.4	46	84.7	51.1	○88.5	肯定80	28.6	75.7	30	100		肯定80	肯定80	肯定80	肯定80	
重点目標に向けて取り組んだことがある	51.2	87.6		35.5	75.5	28.6	78.6	67.5	91.3	67	96.7	強肯定50	44.3	91.9	63.6	100					強肯定50	

(2) 教育課程編成会議を通して

当該年度の教育活動における児童等の各実態、及び成果と課題が次のように明らかになった。

成果	課題
<u>ア 思いを大切にした</u> ・前向き ・明るい ・思いがあれば挑戦ができた ・自己肯定感につながった <u>※取り組みやすい目標だった</u> イ 心の成長 ・ペア学年との交流 ・あいさつ	<u>ア 伝える力が弱い</u> <u>イ 話す、聴く力が弱い</u> <u>ウ 想像力・思考力の欠如</u> <u>エ 経験不作</u> <u>オ 自信がない</u> <u>カ まとめ、振り返り</u> <u>キ 意見の交流</u>
重点にしたいこと	
<u>ア 子供の思いを大切に</u> イ「楽しい」と思わせる。 ウ 認める エ 自信とやる気を大切にする オ 想像力 カ 基本的生活習慣 キ 聴く力	ク 伸ばしたい（基礎学力・明るさ・自分事） <u>ケ 自分から</u> <u>コ 他者と共に（コミュニケーション、他者意識）</u> <u>サ 温かい人間関係</u> <u>シ 友達を認める力</u>

6 学校教育方針

令和7年度は重点目標「思いをもち 挑戦しよう」を実現するために、授業、学年学級経営・行事、活動の3つの場で、「子供の自信(自己肯定感)」と「個の力」の育成を行ってきた。思いをもつことで挑戦する子が増え、心のチャンピオンカードで認め合うことにより、個の力は高めることができた。しかし、他者意識(友達を認める力、伝える力、メタ認知能力等)が弱いことが明確となった。

これからの社会をつくる子供たちは、社会的変化に対応するだけでなく、自らが変化の先頭に立ち、新たな価値(友達との比較ではない、工夫や創造、結果ではなく過程が大事、自分らしさなど)を生み出していく気概をもつ必要がある。

今年度も、本校児童の良さを生かしながら、「自信(自己肯定感)岳洋学舎目標」と「個の力(岳洋学舎目標)と他者意識」の育成を、下の3つの場(教育方針)を中心に組み組んでいく。子供は学校だけで育てるのではなく、家庭、地域、学校の3者の連携も大切に行っていく。

(1) 授業で「子供の自信(自己肯定感)と個の力・他者意識」を育てる

子供を主語とした授業で多様な学びの場を設定し、学力の3つの柱の資質能力(学びに向かう力・人間性等、知識・技能、思考力・判断力・表現力等)を養い、子供の自信と個の力・他者意識を醸成する。

(2) 学年・学級経営で「子供の自信(自己肯定感)と個の力・他者意識」を育てる

安全・安心で信頼感のある人間関係を築く学級生活を基盤に、全教育活動を通して、子供たちの未来に向かって生きる力(知・徳・体)の基礎や夢・志をバランスよく養い、子供の自信と個の力・他者意識を醸成する。

(3) 行事・活動(全校)で「子供の自信(自己肯定感)と個の力・他者意識」を育てる

授業と行事・活動(全校)とを連動し、互いに補完し合いながら、志、挑戦心、自己肯定感等、情意面を育む。また、代表委育会を通し全校で取り組むことを決定し、学級・学年・全校で取り組んでいく。子供たちが他を意識して主体的に取り組んだ過程を全職員、全校で認めていく。子供たちの取組は学級・学校の宝物(心のチャンピオン)とし、子供の自信と個の力・他者意識を醸成する。

7 学校教育目標(岳洋学舎教育目標;R2~)

自信をもち 自分の力を発揮する子

8 重点目標

思い・挑戦・高め合い

「やらされる」から「自ら挑戦する」へ転換するためには、本人の内発的な動機(思い)が欠かせない。子供たちの「思い」を大切にすることで、学級・学校の中に「この仲間なら、自分を出しても大丈夫だ」という安心感と信頼関係が生まれ、実現に向けての挑戦する行動につながっていく。思いと挑戦は、子供たちの成長に欠かせない。

また、学校は、単に知識を得るだけでなく、「自分とは異なる思い」を持つ他者と出会う最小の社会である。一人で考えていると、自分の経験や知識の範囲内でしか答えが出せない。しかし、異なる視点が混ざること、

- ・多角的視点の獲得:…「その発想はなかった!」という驚きが、思考の枠を広げる。
- ・葛藤による成長:…意見の対立を「敵対」ではなく「課題」と捉えることで、合意形成のスキルが身につく。
- ・自己理解の深化:…他者との違いを知ること、逆に「自分が大切にしていること」が明確になる。

このような、高め合いが見られる学校にしていきたい。

そこで、令和8年度の重点目標は「思い・挑戦・高め合い」と設定する。

【思い】を出す

自分の心の中にある小さな芽（興味・違和感・願い）を自覚し、安心して表に出せる状態を作る。

- ア 感情の言語化: 「うれしい」「くやしい」「もっとこうしたい」といった本音を、否定せずに受け止める。
- イ 「やりたい」の種探し: 「自分ならどうしたいか?」という主観的な問いかけを増やす。
- ウ 心理的安全性: 「何を言っても笑われない」という学級づくり。

【挑戦】へ踏み出す

「思い」を心の中に留めず、実際に行動（挑戦）に移す段階。失敗を「学び」として捉える。

- ア スモールステップの設定: 大きな目標だけでなく、「今日これだけはやってみる」という小さな挑戦を称賛する。
- イ 失敗の再定義: 失敗を「ダメなこと」ではない。「失敗は成功の基」「失敗は宝」

【高め合う】集団へ

個々の「思い」と「挑戦」が交差し、互いに刺激し合いながら、一人では到達できない高みを目指す段階。

- ア 違いの活用: 「自分と違う考え」を、自分の学び・挑戦を高めるためのヒントとして捉える。
- イ 建設的な意見: 単なる認め合いだけではなく、「もっと良くするには?」という視点で助言し合える関係を作る。
- ウ 共通の願いへ: 個人の思いを「学級・学年・学校の願い」へと価値づけ、大きなプロジェクトや課題解決に取り組む。

※3学期最後…教師からの心のチャンピオン

「あなたのおかげで〇〇〇の学級・学年・学校になったよ」と、一人一人を認めてあげたい。

【研修・学びづくり】

授業で「子供の自信（自己肯定感）と個の力・他者意識」を育てる

～児童が主体的に取り組み、高め合う授業づくり～

授業の主役は子供である。そのために、担任はティーチャーであるより、授業のファシリテーターある。子供の思い、挑戦する心と態度を大切にし、高め合う授業を行う。

(1) 「思い」を育む

子供一人一人が「やってみたい」「なぜだろう」という課題意識をもたせる。

- ① 単元構想（課題設定）
- ② 子供が本気になって取り組む「問い」を引き出す仕掛け
- ③ 自己選択・自己決定の場面作り

(2) 「挑戦」を支える

失敗を恐れずに試行錯誤し、より高いレベルを目指す。

- ① ICT の効果的活用
- ② 個別最適な学びの充実

(3) 「高め合い」を促す

対話を通じて自分とは異なる視点を取り入れ、考えを再構築する。

- ① 対話の質の向上（聴き合う関係）
- ② 協働学習の場面設定
- ③ 振り返り など

【生徒指導・特別支援・人権】

学年・学級経営で「子供の自信（自己肯定感）と個の力・他者意識」を育てる

～児童が日々安心して生き生きと楽しく生活する学級・学年づくり～

児童の学校での生活基盤は学級である。一人一人にとって安全安心な居場所となる温かな支持的学級風土を醸成する（居場所づくり）。互いに認め合い励まし合う人間関係（絆づくり）の中でこそ「自分の思いを表出し、挑戦し高め合う力」が醸成される。

教師の指示がなくても、自分たちの生活を自分たちで創ることができる学級を目指す。

特別支援教育を通して、個に応じた指導・支援ができるようにする。

(1) 「思い」：共感と自己理解

自分の大切さと同時に、他者の背景や特性を理解し、尊重する心の土台を作る。

- ① 自己肯定感・自己有用感
- ② 多様性理解
- ③ SOS が出せる学級・学校

(2) 「挑戦」：安心感の中での試行錯誤

- ① 心理的安全性の確保
- ② 個別の教育支援計画に基づいた挑戦課題の設定
- ③ 挑戦する過程を認め合う心

(3) 「高め合い」：仲間意識と振り返り

- ① 互いの違いを、「集団の強み」とする学級
- ② 子供の思いと挑戦を認め合える学級
- ③ チームでいじめ未然防止・対応
- ④ 心のチャンピオン…学級から全校へと
など

【活動づくり】

行事・活動で「子供の自信（自己肯定感）と個の力・他者意識」を育てる
～児童が「自分ごと」としてつくる行事・活動づくり～

児童が、行事や活動に「自分ごと」としての思いをもって取り組み、認め合うことで自信（自己肯定感）と個の力、そして、他者意識が育成される。能動的な姿勢とするために、実行委員等子供が前面に出る活動を推進する。

教師は事前指導に力を入れ、実際の場面は子供に任せる心構えをもつ。

(1) 「思い」を大切にする

「自分たちの学校・学級をより良くしたい」という気持ちを大切に

- ① 話し合い活動の取組…代表委員会がお手本
- ② 委員会・係活動への取組…「楽しい学級・学校にするために何ができるか」という思いを反映させる。
- ③ ゴールを思い描く…目指す授業像、目指す学級について話し合い、振り返る。

(2) 「挑戦」する過程を認め合う

子供の思いについて集団で話し合い、意思決定する。

- ① 「自分たちで創る」学校行事や委員会活動…可能な限り、子供が企画・運営する。
- ② 挑戦する過程を大切に。失敗は成功の基。

(3) 「高め合い」「振り返り」

単なる「多数決」ではなく、異なる意見を調整し、より良い案を創り出す過程を重視し、「高め合い」を実感。

- ① 振り返りの質の向上…「できた」「できなかった」「成功した」「失敗した」の結果だけでなく、挑戦の過程での「工夫したこと」「乗り越えた壁」を価値付ける。
- ② ペア活動…上級生が下級生を思いやり、下級生が上級生に憧れる関係性の中で、互いの役割を高め合う。
- ③ 心のチャンピオン承認の場の設定：友達の頑張りや、集団への貢献を認め合うコーナーを設置。
- ④ 小笠東小の伝統である「ペコリあいさつ」…子供たちが生涯にわたって発揮できるよ

う継承発展させる。保護者、地域へ広げ深める。

- ⑤ 地域のボランティアの方・地域企業の方などを講師に迎えて行う学びを通して、地域との連携を大切に活動を進める。

9 計画的・効果的な予算編成と早期執行及び適正な会計処理

- (1) 予算編成委員会、教材選定委員会の確実な開催をする。
- (2) 安全点検の徹底し、破損、危険箇所には速やかに修繕等対応する。
- (3) 「報告・連絡・相談・記録→ 報告」による情報共有を徹底する。
- (4) 備品の有効活用と施設設備の管理を徹底する。

10 目指す教職員（信頼される頼もしい職員集団となるための行動指針）

～子供への愛情と教育への情熱をもち、支え合い高め合う教職員集団～

- (1) 安全安心；危機管理能力、危険予知能力をもち、学校への信頼と教育活動の安全安心が常に保たれるよう配慮します。
- (2) 人権尊重；子供への優しい眼差しと笑顔、温かな言葉（認め合える温かなボイスシャワー）を注ぎ、愛情いっぱいの関わりをします。
- (3) 信頼関係；子供と信頼関係をつくとともに、子供同士をつなげ、子供にとっての居場所となり、活動へのエネルギー源となる「学年・学級づくり」をします。
- (4) 自己研鑽；子供の学習意欲を引き出し、学びの実感がある授業づくりに向け、仲間とともに絶えず、自己研鑽に励みます。
- (5) 責任協働；責任感と協働性をもち、組織の一員として実行できることを考え、実践して、小笠東小学校力を高めます。
- (6) 業務改善；子供と向き合う時間の確保と、心身の健康のために、小さなエネルギーで大きな成果を上げる業務の効率化を図ります

- ①勤務実態自己管理により、勤務状況を把握し、改善に生かす
- ②有効会議の精選
- ③日課（10分休み時間、掃除・給食等）と行事の見直し
- ④電算処理の活用
- ⑤不祥事根絶研修
- ⑥ホームページ作成は級外が行う
- ⑦学級・学校支援員、スクールサポートスタッフの効果的配置、活用を行う

- (7) 適正服務；教育公務員としての自覚をもち、子供の手本となり、保護者・地域住民の信頼を高める適正な服務・勤務に努めます。